

広島神楽

定期公演 へようこそ

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます。
当公演では、全てのお客様に気持ちよく神楽を鑑賞していただくため、下記のルールを設けています。
ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

- (1) 座席での**飲食は出来ません**。ロビーをご利用下さい。
- (2) 上演中の立ち歩きや大声での私語など**他のお客様のご迷惑になる行為**はご遠慮下さい。
- (3) お子様連れの方は、お子様が舞台の前に出られると、演出等で**危険な場合**がございます。**着席**での鑑賞をお願いします。
- (4) 撮影について
→写真撮影は右図の**撮影エリア**で行って下さい。
※**ビデオカメラでの動画撮影、フラッシュの使用は禁止**します。
(マスコミ関係など主催者の許可を得ている場合を除く)

以上です。どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

撮影エリアについてのご案内

写真撮影をご希望の方は必ず、下記の撮影エリアをお願いいたします。

撮影エリア

フラッシュを使用した撮影、三脚を使用した撮影、撮影された画像の営利目的での複製および何らかの形態での複製公開は禁止させていただきます。

スマホや携帯で撮った動画や写真をSNSにどんどんアップして

広島神楽の魅力を発信してください!!

12月18日のタイムスケジュール
出演:山王神楽団(北広島町)
19:00～開演
19:05～第一幕『紅葉狩』(およそ35分)
～幕間(休憩)～
20:00～第二幕『八岐大蛇』(およそ40分)
20:40～記念撮影会

衣装やお面を実際に見ていただき、記念撮影をしていただけます。携帯電話での撮影も大歓迎です。本日の記念には是非ご参加下さい。また、神楽団との交流もしていただけます。疑問に思ったことなど、直接団員にお聞きください。(舞台へは靴を脱いでお上がりください。)

※記載の時間は目安です。多少前後する場合がございますので、あらかじめご了承ください。

さんおうかぐらだん

山王神楽団プロフィール ～北広島町～

明治中期に地元、山末神社氏神祭に神楽を奉納するため、神社周辺の人々によって「下本地神楽団」として発足した当神楽団は、昭和25年、神社に奉られている「山王権現」から名を頂き「山王神楽団」となり、現在に至ります。近年においては、ロシア・サンクトペテルブルグ建都300周年に千代田混成神楽団の一団として参加しました。また、日韓芸術交流公演で韓国のコリアンファンタジーとともに、国立劇場にて公演させていただいたり、県外の公演にも力をそいでおます。練習の都度、あるいは公演の都度「演技の粋をかたむけて」を目標に、今後も芸の修得に取り組み、伝承、保存に努めてまいります。ご支援、ご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

第一幕『紅葉狩』 もみじがり

狩野の旅にでた平維茂(たいらのこれもち)が道に迷い信州戸隠山(とがくしやま)に入ると、紅葉狩りの酒宴を開いて待ち受ける戸隠山の鬼女たちに酒宴へ誘われます。

維茂一行が酒に酔い伏し一命危うしとなったとき、日頃信心する八幡大菩薩(はちまんたいぼさつ)が降臨し、維茂らの命を救います。

一命を救われた維茂一行は授かった神剣をもって、激闘の末めでたく鬼女を征伐する物語です。

大	太	鼓	—	田坂	真吾
小	太	鼓	—	増野	夏海
手	打	鉦	—	藤井	英昌
	笛		—	川本	喜美代

平	維	茂	—	前	翔太
清	原	成	—	森岡	佑太
八幡	大菩薩		—	増野	慎司
紅	葉	姫	—	森藤	大輝
白	蜘蛛		—	井上	亮
朱	蜘蛛		—	山本	朋輝
小	鬼		—	井上	亮
小	鬼		—	山本	朋輝
大	王		—	芳信	智也

第二幕『八岐大蛇』 やまたのおろち

古事記の神話を神楽化したもので、昔、高天原を追われた須佐之男命が、出雲の国簸の川上で嘆き悲しんでいる足名椎(爺)・手名椎(婆)老いた夫婦と奇稻田姫(八人目の姫)に出会い、その訳を聞き、命は大蛇退治を決意します。

足名椎・手名椎に毒酒を造らせ、やがて現れた大蛇がその酒を飲み酔い伏して眠ってしまいます。命は酔い伏した大蛇を大格闘の末退治します。

この時、大蛇の尾から出てきた一振りの剣を、命は「天叢雲剣」と名付け、天照大神に捧げ、めでたく奇稻田姫を妻とするという物語です。

大	太	鼓	—	中川	克也
小	太	鼓	—	井上	亮
手	打	鉦	—	是角	健二
	笛		—	川本	喜美代

須佐之男命	—	前	翔太
足名椎	—	藤井	英昌
手名椎	—	中田	賀惟
奇稻田姫	—	増野	夏海
大蛇	—	※数頭出ます	

※出演者は予告無く変更になる場合がございます。
※助成/一般社団法人地域創造